

Sさんの思い出

Sさんに出会ったのは、今から5年ほど前になります。井谷先生の診療所を改築、第二ともの家を開いていたときに近所の方が「おじいさんが血まみれで倒れている」と言われ、助けに行ったのがSさんでした。散歩していて転んだようです。吾も紅が開設したときには見学第一号として来所、ご案内したところ「カラオケはないのかな。カラオケがあったら来たい」とおっしゃっていました。近所のまとめ役でもあり、要望を言ってこられたこともありました。第二ともの家で地域講座をしたときには奥様とともに参加してくれました。

こんなお近くののに、近くだったからこそ足が遠のいたのか、利用のご縁はありませんでしたが、2年前に奥様が骨折入院されたことをきっかけに、吾も紅に来られるようになりました。「わしのメシは誰が用意してくれるん？」と心配そうに尋ねられた顔が印象に残っています。元同僚のOさんやDさんがいたことも手伝って、持ち前の明るさですぐ馴染まれたちまち人気者になりました。お風呂のときなど、色々と苦労話を語ってくれ、「弟妹が多かったけん、牛乳配達したり面倒見たりして苦労した」「兄さんは偉いもんで、天皇陛下にも会ったことがある」「わしは工場勤務だったからよかったけど、同郷で戦死した者がおつてのう…かわいそうじゃった、戦争はいかん」と言われていました。「わしはあんたと不思議と気が合うんよ」と、私にはいつも優しいSさんでした。頭も良く、働き者で「何か電気の仕事はないか」と言っておられました。俳句には人柄がよく表れていると思います。素直で素朴、温かくて身の回りを詠んだ句が多いように思います。「集まり」「会合」が好きで、上手に話をまとめられるのでいつも感心させられました。運営推進会議でも毎回「地域のために、発展するように」と意見を述べられ、食事の前にも一言お願いすると必ず「えーみなさん…」と嫌がらずに話されるので、みんなが演説がうまいと褒めていました。また怒っていても人の話にきちんと耳を傾けてくれるし、誰かが困りごとを話していると親身になって相談に乗ってあげていました。きっと周りの人を大切に生きてこられたのだなあと思いました。その人懐こさが愛される要因で、Sさんの周りにはいつも笑いにあふれ、人が集まっていたいました。

昨年一度入院され、あわや看取りか、と思われたときには涙がこぼれました。諦めたくない、と必死の思いで好物を食べてもらったり話しかけたり、レクに参加してもらったりしました。俳句を作ってもらえませんか頼んだときに「雪道を 静かに踏んで 郷に着く」と詠まれ、会心の笑みを浮かべられました。自分でも良い句ができたと思ったのでしょうか。ものが食べられるようになって、歩けるようになって、以前のようにおしゃべりができて…そのときの私たちの喜びは計り知れません。気持ちが通じて元気になっていくその姿は介護者冥利につきました。今になって考えると、そこからの一年間はSさんからの私たちへのプレゼントだったのだな、と思います。愛するSさんと短期間で別れするにはあまりにも辛すぎました。もう一度楽しくお話でき、歌声が聴けて、笑顔を見ることができたこと…。本当にありがたい時間でした。

ひとつ残念なことは、Sさんを主人公にした「水戸黄門」が上演できなかったことです。昨年の文化祭に企画していた矢先に偽通風で入院されてしまい、今年は別の方に演じてもらい、Sさんには脇役と

して参加していただきました。Sさんの黄門様ならもっと面白い劇になっただろうなあ、と心の中で想像しています。

Oさんがよく、「どっちが先に逝くかな。あの世でまた会おうな」と話しかけておられました。2人で思い出話をしながら歌うこともありました。きっと、彼岸でまたOさんと男同士で仲良く酒を酌み交わし、こちらを見守っていてくれるでしょう。戦火をくぐり抜けて家族のために尽くしてきたまじめで働き者の男性、「戦争はひどい、してはいけない」と身を持って述べてくれた世代がいなくなるのは寂しいです。私たちは、その面影を、言葉を胸にこれからの時代を継承していかなければならないのだと思います。

私はこの仕事に就いて10数年ですが、人は最期を迎える時と場所を選べる、と確信しています。Sさんの愛した地域で、愛する家族が側にいてくれて、声を聴きながら最期を迎えられたことは、とても幸せだったのではないかと思います。心配そうな皆を見て、ちょっととぼけたように「どしたん」と言って笑わせてくれました。しみりせず、Sさんらしいユーモアたっぷりの最期でした。座右の銘「ゴーイング・マイ・ウェイ（「わが道を行く）」は一見自分勝手のようにですが、周りの意見にも耳を傾けながら、でも雑音にとらわれることなく自分の定められた道を歩くよ、という本当は芯の強い、賢くて飄逸とした生き方であると思います。Sさんの人生そのものを表しているようです。大好きなSさん、どうかあの世で待っていてくださいね。たくさんの笑いと思い出をありがとうございました。安らかにお休みください。

